

公益財団法人東京しごと財団委託事業 東京都補助事業

東京ジョブコーチ

2016.2
第8号



CONTENTS

- | | | | |
|---|-----------------|--|----------------------|
| ① | Customers Voice | 公益財団法人がん研究会 がん研有明病院 ホームライフ管理株式会社 株式会社総合キャリアトラスト SAKURA新宿センター あきる野市障がい者就労・生活支援センター あすく | P2 P3 P4 P5 |
| ② | 東京ジョブコーチによる実習支援 | | P6 |
| ③ | ご利用にあたってのQ&A | | P6 |

東京ジョブコーチ
職場定着支援事業
広報紙（年2回発行）



西田 尚美 様
2014年入社。2015年7月より人事部人事労務課にて障がい者雇用担当としてご活躍されている。

公益財団法人がん研究会 がん研有明病院 経営本部 経営管理センター
人事部 人事労務課 岩瀬 政子様 西田 尚美様

「がん研究会の事業内容について教えてください。」

西田様(以下、N)・・・がん研究会は一九〇八年に日本初のがん専門研究機関として設立しました。当財団の「がん克服をもって人類の福祉に貢献する」という基本理念の下、医師・看護師・研究者など全ての職種の方が連携し、がんに立ち向かうため、日々努力をしています。

二〇一一年四月、公益財団法人の認定を受けたことで、より社会性や公益性を伴いながら最善の努力をしていきたいと考えています。今年新たに、有明病院敷地内に放射線治療の施設や、画像診断施設や健診センターを開設しました。

岩瀬様(以下、I)・・・当院は、七〇〇床のがん専門病院です。二五床の緩和ケア病棟もありますが、平均在院日数十三日程の急性期病院です。手術件数も七千件を超え、二〇室ある手術室がフル稼働の状況です。そのため、全国の大学や病院から多くの医師、看護師、薬剤師等の医療従事者が研修や見学に訪れています。そういった外部からの刺激を受けな

患者さんやご家族の意向や想いを大切に受け継いでいきたいです



人事部 人事労務課 課長 岩瀬 政子様

がら、「患者さんにより良質な医療を提供したい」と、あらゆる職種が関わるチーム医療を提供しています。そのため職種を越えてみんな仲が良いという風土があるように思います。当会は、よく公的機関と間違えられますが公益財団法人であり民間の機関となります。主に企業や個人、患者さんやご家族から頂戴する寄付で運営しています。最近では治療を続けた結果、残念ながらご逝去された患者さんやご家族から「ご本人の財産をがんの治療に役立てて欲しい」と、遺贈として寄付を頂くことが増えております。感謝と同時に、患者さんやご家族の想いを忘れることなく大切に受け継ぐという意識が、スタッフの中に自然と定着しているように思います。

一人ではできない部分を東京ジョブコーチに心強くサポートしてもらいました

障がいのある方の働き方や仕事内容を教えてください。

N・・・二〇一一年より本格的に障がいのある方の雇用に取り組み始め、ワークサポートチーム(以下、WS)を立ち上げました。一五年一二月現在、WSでは、一一名の障がいのある方(知的障がい九名、知的・精神障がい重複一名、身体・精神障がい重複一名)が働いています。業務内容は入院病棟での看護助手の補助業務です。ベッド・点滴台・車椅子等の清掃やシュレッダー・封入等の事務等の作業を行っています。現場では、医師・看護師・助手等のスタッフがチームで動いておりWSもそのチームの一員という意識が浸透しています。障がいのある方の雇用というところに特化せず、病棟で共に働くチームメンバーであるという意識があるためとても心強いです。今後もWSの活躍の場を広げていくことが私たちの目標です。

西田さんにも現場でJCとの連携をとってもらいました。

N・・・私は昨年七月よりWSの担当となりました。経験や知識が少ない分、業務現場にできるだけ立ち合い、積極的にヒアリングなどを行い、担当者として受け入れてもらう事から始めました。作業遂行状況の確認とあわせ、障がい特性も十分に理解した上で関わっていきたくと思っています。ですが、今までは手探りの部分が多くありました。

今回、JC支援に入ってもらったことで、特性や対応上の配慮点等に関するノウハウや他社の事例も教えていただけましたし、一人ではできない部分を本当に心強くサポートしてもらいました。昨年末より、JCにはビジネススマナーや作業手順に関する研修支援を行ってもらっています。この機会を通してWSメンバーだけでなく私自身も学んでいきたい、と毎

公益財団法人がん研究会

がん研究会は、1908年(明治41年)、日本初のがん専門機関として発足。「がん克服をもって人類の福祉に貢献する」を基本理念として掲げている。

所在地：東京都江東区

機構：経営本部、病院本部(がん研有明病院)、研究本部(がん研究所、がん化学療法センター、ゲノムセンター)の3部門より構成。

作業指示ボード



フロアでのコミュニケーションツールとして活用されています

東京ジョブコーチ(以下、JC)をご利用いただきありがとうございます。N・・・各フロアでは看護師・看護助手が常に動き回っているため、WSが適時指示を受けることの難しさが以前から課題でした。JCの方に相談したところ、指示用ホワイトボード(左写真)の設置をご提案いただきました。その結果、指示がスムーズ

がん研有明病院前にて



がん研キャラクターのカニ子ちゃん

ホームライフ管理株式会社 管理部 人事総務課
古瀬 崇弘様 竹林 貞治様 田川 文詠様



竹林 貞治様
2008年入社。09年11月より管理部に所属。13年より障がい者雇用担当としてご活躍されている。

ホームライフ管理株式会社

首都圏や仙台圏で「グローリオ」マンションシリーズを展開する「セコムホームライフ」グループの一員としてマンションの管理事業、ビルの清掃・管理事業を中心とした事業を展開。
本社所在地：東京都渋谷区
設立：2008年2月
事業内容：
マンション管理事業
リフォーム事業
大規模修繕工事業 施設管理事業
不動産仲介事業 設備管理事業
清掃管理事業 環境衛生管理事業

一人ひとりが、確実に成果を出せるよう段階を踏みながら指導しています

―御社の事業内容について教えてください。―

古瀬様(以下、F)・・・マンション管理、ビル管理を主な事業としています。分譲マンション管理では、共有部の管理や、修繕工事、専有部の売買仲介、リフォーム等も行っていきます。

―様々な障がい種別の方を雇用しているところがいいですね。―

竹林様(以下、T)・・・人事総務課では、知的障がいの方二名、聴覚障がいの方四名の計六名のメンバーが「ハローモニター」という名称でグループを組み働いています(一五年一月現在)。また、ハローモニターのメンバーの他に同課内で正社員として精神障がいの方が一名働いています。F・・・聴覚障がいの方の人数が増え、コミュニケーションをより円滑にするため、今年度に入り、手話のできる田川社員を採用したという経緯があります。

田川様・・・日々のお仕事といたしましては、メンバーの方々の一日のスケジュールを考えたりの、お仕事のフォローを行ったり、他の部署の方と

コミュニケーションを取る際には手話による「橋渡し」を行っています

―どのように障がい者雇用を進めていったのですか。―

T・・・初めての雇用は統合失調症のAさんでした。Aさんは服薬の副作用もあり記憶が持続せず、複雑な仕事は難しい状況でした。その為、判断を伴わない単純作業がAさんには適していると考え、他の部署に適切な作業がないかどうか検討しました。その結果、Aさんには組合会計部署の通帳コピー作業に取り組んでもら



人事総務課 課長
古瀬 崇弘様



人事総務課
田川 文詠様

本人、企業、支援機関の「三位一体」で連携をとっていただくことの大切さを実感しています

―「三位一体」で連携をとっていただくことが大切だと実感しています。―

それ以前は、担当社員が毎月一千冊以上の通帳コピー作業を時間をかけて行っていました。その後は、コピー以外にも請求書の封入やファイリング等の簡易作業の依頼を受けることができました。

これは、メンバー一人ひとりの努力と、精度や丁寧さ、最終的には生産性を高め、確実に成果を出せるよう、段階を踏みながら指導してきた成果だと思っています。

また、自身の作業を他のメンバーに教える機会を積極的につくることでスキルアップ、ポトムアップも目指しています。

―周囲の社員の方の反応はいかがでしたか。―

T・・・知的障がいの方や聴覚障がいの方を雇用するうちに、「繰り返し練習すればある程度難しい仕事もできるんだ」と周囲の理解も深まってきた。組合会計以外の部署からも作業を依頼してもらえようになりました。いろいろな方とふれ合えるような機会を今後もつくっていきたくと考えています。

―支援機関との連携は、どのようにとっていますか。―

T・・・特に精神障がいの方は、体調が優れなかったり思いを上手く伝えられなかったりでバランスを崩すことが多いのですが、支援機関の方が定期的に訪問し精神的に支えてもらっているのとても助かっています。F・・・企業の立場から家庭や生活に関することなどこまめに踏み込んで良いのかわからないので、入社の際は、支援機関のサポートをお願いしています。スムーズに定着を進めていくためには、本人、企業、支援機関の

「三位一体」で連携をとっていただくことが大切だと実感しています。―

―東京ジヨブコッチ(以下、JC)をご利用いただいで、いかがでしたか。―

T・・・聴覚障がいの方Bさんを雇った当初、周囲が本人にどう接したら良いかわからない中、JCのフォローのおかげで、円滑なコミュニケーションを取ることが出来ました。F・・・Bさんの入社当時、聴覚障がいのある方が一人であったため少なからず孤立感がある中で、JCの存在はとても心強かったと思います。

T・・・Bさんの入社を機に、私自身も手話を学び始め、半年程で業務指示を手話で行えるようになりました。JCにも「手話が上達しましたね」と褒められ、嬉しかったことを覚えていきます(笑)

その後、複数名の聴覚障がいの方を採用する中で当事者間でのコミュニケーションの行き違いが生じるということがありました。その際、JCが丁寧に個別面談を行い早期解決に導いてくれました。

手話通訳としての役割だけではない、JCという存在の大切さを感じました。



本社エントランスにて

株式会社総合キャリアトラスト SAKURA新宿センター
生活支援員 瀧澤 文子様



瀧澤 文子様
精神保健福祉士、第1号(現:訪問型)
職場適応援助者。病院の心理相談員、
スクールカウンセラー職等を経て
2012年入社。

企業を知る機会を積極的ににつくり、
就労のイメージを具体化しています

―御社の概要について教えて下さい。

総合キャリアトラストは、親会社である株式会社総合キャリアオプシヨンの一部門を経て二〇一二年に長野に設立された特例子会社です。精神障がいのある方たちを雇用し、グループ社内の給料明細の発送といった仕事などを行っています。そこで培ったノウハウで、就労移行支援事業を始めました。現在、首都圏には新宿、蒲田、池袋、蕨、横浜の五ヶ所に就労移行支援事業所のセンターがあります。SAKURA新宿センター(以下、センター)は二〇一五年六月に開所三周年を迎えました。開所以来、約三〇名の方がセンターから就職されました。現在(取材時の二〇一五年一月)の登録者数は二二名です。精神障がいのある方は一三名、身体障がいのある方は三名、知的障がいのある方は五名、うち発達障がいの方が一名です。オープン就労の方の就職後の定着率は、約九四%です。

―就職を目指すために、どのようなプログラムを行っていますか。

生活や障害の状況やお仕事のご経験は一人ひとり違います。入所時に担当職員が付き、二週に一度、面談を行っています。アセスメントとプランニングは、ご本人の意向を聴き取りながらすすめています。原則利用期間は二年で終わってしまいうため、利用後一年前後の時点で進路の見極めを行います。就労経験が少ないうちに、実習の機会を必ず設けて、約一年〜一年半で就職につなげていけるように支援を行っています。週四〜五日の通所が体調的に難しい方には、就労継続支援A型やB型といった事業所も一緒に検討しながら、選択肢を広げる機会をつくっています。センターには生活・就労・職業指導員がいます。それぞれが連携を取りながら、皆さんのセンターでの訓練や就労後を支えています。

―センターの今後の展望や目標はありますか。

今後、継続して定着支援に力を入れていきます。通所中から利用者の方には働くビジョンを持っていただくために、企業見学説明会、実習

といった、実際の企業を知る機会を積極的ににつくり、就労のイメージを具体化できるようにしています。また、一方でみなさんの就職先をしっかりと確保していくために、継続して企業とのつながりを大切に、さらに就職先の開拓にも力をいれてまいります。

また、企業と提携したソーシャルオフィス(以下、オフィス)がセンター内に入っています。その企業に利用者の方を雇用していただいたことを機に、関係性ができ、オフィスの開設に至りました。現在、一〇名の方が働かれており、専属の職員が一名入っています。本社に近いため、企業本社へ移動して清掃作業、センターではパンフレット封入等の軽作業、パソコン作業の仕事を行っています。センター内でのコミュニケーションや業務連携はとりやすいですね。オフィスに病気に気や障がいの心配がなくてもあります。



訓練中のご様子

ご本人も企業も地域も支援者も巻き込んでいきましたという姿勢を東京ジョブコーチに教えてもらいました

―東京ジョブコーチ(以下、JC)を使っていただくきっかけを教えてください。

開所二年目頃、就職者が増加したことで、センターの就労支援員のマッパワーの問題がありました。また、中々状況が好転しない方への改善策としてJCの利用に至りました。現在も、ある企業でJCに業務の

トレーニング等を行っていただいております。非常にお世話になっております。―当事業へのご意見等お願いします。

私達の仕事は、関わってきた当事者の方へ支援が中心となりますが、定着支援先の企業の方から、厳しいお言葉をいただいたことがあります。そこへ、JCが入ったことを機に、ご本人も企業も地域も支援者も巻き込んでやりましょう、という体制が整い、企業の対応も緩和していたことがありました。

JCの方はキャリアがあり経験豊富で、企業への対応も安心感がある方が多いように感じています。JCは、当事者へはもちろん、同時に企業の方にも働きかけてくれ、まず環境を変えていく、当事者に対する支援を浸透させていく、いわば障がいの啓蒙活動を行ってくれています。大きな視点で動かれていますので、私自身も勉強になります。

―雇用前提実習にご利用いただけるのも当事業の特徴の一つです。

実習時にJC支援をお願いし、採用後もそのまま支援を継続する方が進めやすいですね。雇用の経験が少ない企業は、私達の想像以上に困っていることもあるので、今後ぜひ早期の段階からお願いしたいです。



SAKURAセンター
エントランスにて

特定非営利活動法人 秋川流域生活支援ネットワーク

あきる野市障がい者就労・生活支援センターあすく 藤間 英之様 奥村 順太様



奥村 順太 様

2013年より就労支援コーディネーターとして入職。社会福祉士、精神保健福祉士、介護支援専門員。

ライフステージに応じた支援体制を整えています

—法人設立の経緯や事業の概要について教えてください。

藤間様(以下F)・・・以前は、秋川流域には社会資源がほとんどなく、自分たちで提供するしかないという状況で、2006年にNPO法人を立ち上げました。障がい告知を受けた幼児期から高齢期までの一貫した支援体制を地域がどうやって作っていくか、という問題意識を持って取り組みました。我が子が障がい告知を受けたばかりの親たちの集まりや、未就学児の親たちの集まり、児童発達支援、放課後等デイサービス、移動支援、卒業後の就労継続支援B型と就労移行支援を整え、相談支援と就労生活支援センターでその間をつなぐという一つの体系をようやく整えられた気がします。

—就労・生活支援センターについて教えてください。

F・・・生活支援というものは「障害者総合支援法」の地域生活支援事業の中の「障害者相談事業」です。そこと就労生活支援の中の生活支援との切り分けが難しいですが、ひとつのフロアで運営しているので、柔軟に対応できています。生活支援を

あきる野市障がい者就労・生活支援センター あすく

運営：特定非営利活動法人 秋川流域生活支援ネットワーク

法人所在地：東京都あきる野市 設立：2003年2月

任意団体として発足。あきる野市を中心とした1市1町1村にて、児童期から高齢期までをカバーする障害福祉サービス事業を展開している。

「教えれば習得できるんだ」と企業が理解してくれたことが東京ジョブコーチ支援の大きな成果です

—今後の展望、取り組みについてお聞かせ下さい。

F・・・ライフステージに応じた支援体制を強みとして、今後はさらにサービスを充実させていきたいです。現在、全職員を対象に様々なテーマについて研修会を行っています。例えば「就労支援」というテーマは、児童担当の職員にとってもまだまだ先の話と感ぜられるかもしれませんが、児童期の支援が成人後の自立に向けて大事な要素になることに気づいてほしいですね。事例検討などを通じて事業間で相互理解を深め、連携によりサービスの質を高めていくことを目指しています。

—当事業へのご意見等をお聞かせ下さい。

F・・・可能であればJCの人数を増やしてほしいです。また、ご本人の長所やストレングス(強み)を最大限見てもらって、それをもっと伸ばすような支援でしようか。言うのは簡単ですけど(笑)、その視点をもつていただくとすごく助かります。企業との板挟みで大変ですが、今後も連携をとっていきましよう。

企業と支援機関の間に入り「変化」を与えてくれる点もとても助かっています。

—「変化」について、具体例を教えてください。

F・・・ある企業の方から、採用した知的障がいのある方についてパソコンスキルが高いと聞いていたものの、実際には仕事ができずおらず困っている、というご相談を受けることがありました。詳しく話をうかがうと、業務中取り組む機会が少ないということが分かりました。そこで集中的な支援によりパソコン業務に取り組む機会を作るため、JCの支援をお願いしました。支援の成果として、「丁寧に教えれば習得できる」ということをご理解いただけましたことが大きかったです。

先日、その企業から新しい仕事を任せたいと考えている、と連絡がありました。これも「教えればできる」という経験があつてこそです。JCの働きかけにより、障がいがあるから「できない」と決めつけるのではなく、「丁寧に教えればできるんだ」ということを企業の方に実感していただけたと思います。

F・・・その企業が自信を持つてくれ、その後、もう一名の採用にもつながりました。



法人代表 藤間 英之 様



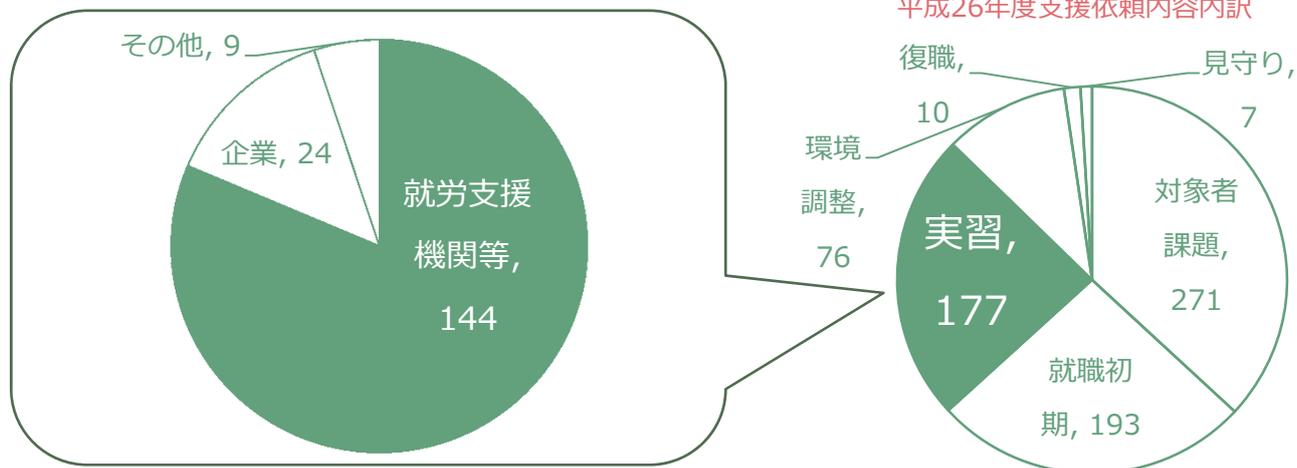
エントランスにて

東京ジョブコーチによる実習支援

東京ジョブコーチでは雇用契約前の実習段階からも支援を行っています。

平成26年度実績では、177件(24.1%)と多くの依頼をいただいています。実習支援の依頼元の内訳は下の円グラフの通りです。就労支援機関等からの依頼が144件(81.3%)と最も多く、企業24件(13.6%)、その他9件(5.1%)と続きます。

雇用契約前の段階からの支援としては、実習の他、一部の委託訓練でもご利用可能です。公益財団法人東京しごと財団では、職場体験実習や委託訓練の相談窓口もあり、実際にサービスをご利用いただけます。



ご利用にあたってのQ&A

Q：就労支援センターなどへの引き継ぎはどのようにしてもらえますか？

A：支援依頼内容によっても様々ですが、概ね以下のような役割分担をしています。

①集中的な支援→東京ジョブコーチ

②継続的な訪問・相談・生活面の支援→就労支援センター等の支援機関

この支援の役割分担がスムーズに進むよう、支援頻度が低くなっていく時期より、支援センター等と一緒に訪問をしたり、情報の引き継ぎを行うなど、連携を深めていきます。

表紙の絵：「チンパンジー」尾崎 文彦

1978年生まれ。'97年よりクラフト工房La Manoに所属。独特のバランス感覚と造形感覚を活かし、迷いのない線でダイナミックに描きます。何を描いてもユニークで生き生きとした表情があり、ほっとするユーモアもあります。尾崎さんの人柄そのものです。

【個展】

2010年 尾崎文彦の元気（東京都／早稲田大学會津八一記念博物館）

2014年 尾崎文彦 絵画展 どうぶつたち（東京都／AC,GALLERY）

2015年 Fellow Art Gallery vol.18 尾崎文彦展「むふふなカタチ」（神奈川県／アートフォーラムあざみ野）

【主なグループ展・公募展】

2011～2015年 ポコラート全国公募展入選

2012年 Good Job! 一障害とアートとデザインの新しいかたち展—（千葉県／ふなばしアンデルセンこども美術館）

2013年 このアートでワクワクする（広島県／ふくやま美術館・鞆の津ミュージアム）Collect展（山梨県／韮崎大村美術館）



Contact us

事業のご利用（支援依頼等）に関すること

東京ジョブコーチ支援室

〒160-0023 東京都新宿区西新宿8-3-39 STSビル3階

TEL(03)5386-7057 FAX(03)5386-2227

Eメール tokyo-jc@ikuseikai-tky.or.jp

ホームページ <http://www.ikuseikai-tky.or.jp/~iku-tokyo-jc>

事業全般、東京ジョブコーチ募集・研修に関すること

公益財団法人 東京しごと財団

障害者就業支援課 コーディネート事業係

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋3-10-3 東京しごとセンター8階

TEL(03)5211-2682 FAX(03)5211-5463

ホームページ <http://www.shigotozaidan.or.jp/shkn/>